

学校関係者評価 令和4年度 総評

学校法人小倉学園 専門学校東京自動車大学校 学校関係者評価委員会は、自己評価報告書査読、学校校舎・施設設備の見学、並びに学校自己評価委員から報告を受け、当学校が国土交通省第一種自動車整備士養成施設、ならびに文部科学省職業実践専門課程の要件を満たし、適切に運営されている学校法人であると判断した。

各評価項目ごとの総評は以下の通りである。

1 学校の教育目標

目標・教育理念等に関し、学校案内パンフレットやホームページを通じて学校外に向けたメッセージ発信を行うとともに、入学生・在校生に対しても「学生便覧」の理事長の言葉、校長の言葉を通じて周知が図られている。

「明るく楽しく学ぶ」ことの具体的実践として自動車・バイクに係るクラブ活動やサーキット授業などが開催されている点は評価できる。

2 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

各項目に対して真摯に取り組んでいる。整備士資格の合格率は、昨年同様に1級・2級・車体すべてで100%合格とはならなかったが、高水準を維持している。学生の退学率が増加しているため、さらなる方策を講じて一層の減少削減に努めることが教育・経営の両面から望まれる。入学定員確保については少子化や、学生の整備士離れ、大学進学率アップ、さらには新型コロナ肺炎の影響で留学生の来日減少等により、前年数を下回った。学校および整備士の魅力、就職の優位性を積極的に発信していく必要がある。

3 評価項目の達成および取組状況

1. 教育理念・目標

専門技術教育に加え社会人として「生きる力」に着眼した教育を実践しようとする姿勢については、自己評価において適切であるとの評価は付してはいないが、取り組みとして評価できるものであり、今後も継続すべき活動と思われる。また学習成果項目の評価にも関連するが、輩出した学生が社会で真に生きる力を身につけられたかを把握するための卒業生の動向調査の実施が望まれるが、コロナ禍もあり、実施には至っていない。カリキュラム編成上の制約が多い中で新技術や就職先での要望が高い電気関係の教育充実を図っている点は評価できる。

2. 学校運営

教員の高齢化が進んできており、定年退職による教員の減少もあるため、新たな教員の採用が急務である。そのためには給与制度や勤務条件の見直しが必要であるそれに伴い、現在評価が最高ではない人事関係の規程等の整備、コンプライアンス体制の整備を進めていく。

3. 教育活動

自己評価において授業評価の実施、教員の人材育成および確保、業界連携における優れた教員確保についての項目の評価が「ほぼ適正」にとどまっている。前項の

学校運営の課題と連動している。関連分野の企業連携では、外車系販売店による海外ブランド戦略および技術情報の勉強会を全教員に対して実施、JAMCA 主催の新技术・車両診断研修改には 2 名の教員が参加した。

4. 学習成果

退学率の増加要因としては、通信制・サポート校などからの入学者が増加し、何らかの問題を抱えている学生が増加したことがあげられる。退学率の減少に向けて、クラス担任、学年主任、教科担当が情報共有して学生のメンタル面でのフォローをしていく。専門カウンセラーの設置も検討する。

5. 学生支援

進路、就職への支援、学生相談に対する体制、保護者との連携については自己評価でも最高水準であり、これは当校独自のクラス担任制がよく機能していること、および集中企業説明会の開催や新たに専任 2 名を進路課に配置、キャリアセンターを開設し就職支援体制の強化を図ったことによる。半面学校敷地、校舎面積の制約、教員の人数不足により、課外活動の支援等、低い評価がついている。健康管理については、保健室に担架、車椅子、血圧計などを新規購入して万が一の際に備えている。

6. 教育環境

学科授業の理解度を高めるために、3 号館の 5 教室に電子黒板を導入。次年度は 1・2 号館および 4 号館にも導入予定。

7. 学生の受け入れ募集

学納金については募集戦略上値上げは難しいが、物価上昇に伴い今後は値上げの検討も必要になる。

8. 財務

特に問題なし。

9. 法令等の順守

特に問題なし。

10. 社会貢献・地域貢献

近隣高校のエンカレッジ、インターンシップの受け入れを継続的に実施している。集団献血やペットボトルキャップの寄付も継続実施している。

11. 国際交流

現在実施している担任と留学生担当による両面のきめ細かいフォローを継続する。日本語力、目的意識など個人別格差大きい中で、国家試験合格率、就職内定率をいかにして確保していくかが課題。

以上、専門学校東京自動車大学校関係者評価の総評とする。